

## 新支部長のもとに活動中

札幌では、初雪も降り冬將軍の到来も間近になりました。

昨年までは、冬がくるたびに、いかに安い灯油を手に入れるかが、主婦の腕の見せどころであったのが、どうやら、今年からは、いかに必要量だけ確保するかが、一家の主としての甲斐性ということになりそうです。

「暖冬であってほしい」気持ちが、ますます、昂ずるばかりです。

さて、このたびは、「支部だより」ということですので、当支部の今年度前半の主な事項と活動について、報告させていただきます。

### 1. 支部長の交代と事務局の移設

5月の支部総会では、前支部長から、「今年度は、1つ、今までとは違った立場にある人、企業的な側面から眺められる人に支部を運営してもらいたい」という提案もあって、支部長が交代しました。

ついで、支部長と支部事務局間の意志疎通が、よりスムーズにゆくように、事務局の移設が、(東海大学→北海道電力)行なわれました。

現在、新支部長のもと、「より身近な、より説得力のある、実践できるOR」を目指して活動中ですが、小世帯のうえ、面積の広いことでは、香川県と同じ広さの町があるほどですから、活動の中心が札幌近郊に偏ってしまうことは、いなめません。底辺の拡大という意味で、皆さん頭を悩ましております。

### 2. 情報化週間行事への後援

10月1日からの4日間、情報化週間行事として、札幌

市で、日本情報処理開発協会、札幌商工会議所、情報処理開発センター主催による、「経営計画とコンピュータ」のセミナーに、当支部が、全面的に協力し、成功裡に幕を閉じることができました。

セミナーの対象は、ORの初心者ということで、広く浅くという内容でしたが、参加者も、40数名になり、盛況でした。

講師は、宮川先生を除いて、当支部のメンバーです。日程、内容については、表の通りです。

実施後の受講者の感想は、

イ. ORなどとは、無縁なものと思っていたが、意外に身近に感じられた。

このような、基礎的な、興味をもてるようなセミナーを、もっと開催してほしい。

ロ. 専門的なことを期待してきたので、やや物足りなかった。(すかさず、当支部の会員になるよう、PRをする。)

ハ. 情報化週間行事というからには、プログラミングの問題とか、よりコンピュータ的な分野も取り上げてほしい。

以上の3つに、要約できるようでした。

このような行事への参画は、ORを普及させる意味でも、また、OR学会そのものを認識してもらい意味でも、非常に有意義と思われるので、今後とも協力してゆきたいと思っています。

### 3. 研究会について

前半は、支部長の交代やら、事務引継やらで、何かと忙しく、また、研究会担当幹事の外国研修もあり、上記の行事後援が精一杯でした。

11月1日に第1回の研究会を、ようやく開くことができました。

テーマ：エンジニアリング・アプローチを巡る内外の話題

発表者：関口恭毅氏(北海道大学 経済学部)

日 時：11月1日(木) 15時～17時

### 日程・内容

時間	10:30～12:00	1:00～2:30	2:40～4:10
10月1日(月)	なし	O R 概 論 (宮川)	統 計 ・ 解 析 I (宮川)
2日(火)	統 計 ・ 解 析 II (宮川)	統 計 ・ 解 析 III (宮川)	シミュレーションI (若林)
3日(水)	シミュレーションII (若林)	シミュレーションIII (齊藤)	実 験 計 画 法 I (浅利)
4日(木)	実 験 計 画 法 II (浅利)	実 験 計 画 法 III (浅利)	ディスカッション・講 評

会場：北海道電力(株) 参加者 13名

#### 概要

ORの手法を心得ている人が、ある1つの問題に、出会った時に、はたして、虚心坦懐に問題を把握できるであろうか？ 問題を手法を考えたらうで、定式化したり、あるいは、その先のアルゴリズムまで考えて、把握してしまっているのではなからうか。

このような、観点から出発して、問題を問題として、受けとめたらうで、解法の開発を試みる、このことをエンジニアリング・アプローチとよんでいる。

内容は、

- ・OR適用の環境
- ・組合せ型問題のアルゴリズムの非連続性、個性
- ・アルゴリズム研究……「計算の複雑さ」から
- ・組合せ型問題と解法における近似化
- ・Engineering Approach

と進められた。

氏は、問題の解法の構造を把握し、トップダウンにアプローチしてゆく方法を試みている。

この8月26日から10月12日まで欧米を視察された時のテーマの1つが、この方法であったということで、「各国の研究者に、いかに暖かく迎えられ、また冷たくあしらわれたか」を、独得のユーモアと各研究者のプロフィールもまじえながら話していただき、楽しく聞くことができました。

#### 4. 今後の計画

具体化されているものとして、12月中旬に、「札幌の地下鉄」というテーマで、月例講演会が予定されております。

研究会は、年度内に、さらに1~2回開く計画で進めています。

## 会員近況



早稲田大学 システム研 西野 吉次

三得工学 最近何か実際のな社会工学問題に取り組みたいと思っています。たとえば環境問題です。一時期公害問題が大きく騒がれ、多大の努力が払われて、どうか大都市の空も、ずいぶんきれいになってきたように思われます。しかし問題解決という段階でもなさそうです。公害という枠から一歩進めて、環境を保全することは、経済成長ということと同じように必要であることは言うまでもないことでしょう。ところがこれらの間に相剋のおこることをしばしば耳にするところですが、21世紀に入る前にもっと事柄を明確化させておかないといけないのではないのでしょうか。こんな問題に手を染めるなんて、あまり賢いことではないらしいですが、科学技術を利得追及にだけ利用しては、いずれまた批判されるでしょう。それで社会工学とは何だろうと考えてみました。これは、利得、説得、納得の三得(に関係する)工学ではないかと思われます。利得は申すに及ばず社会福祉の向上であり、説得とは如何に相手方を説得するか

の方途、納得は相手の言い分を如何に理解するか術であると思うのです。いずれ真実だけが問題ということになるでしょうが、ORを進めるうえにも考えておかないといけないようですね。

関西テレビ放送 電子計算室システム部 久保 匡平

民放ラジオの開始以来、エンジニアとして急速に発達する放送技術のなかに身を置いてまいりましたが、その後電算室に移り、リプレースごとに概念の転換を迫られるこの世界の変転の激しさはいちじるしく、数年が瞬間に過ぎました。この間、番組編成や営業から放送機器の自動制御につながるトータルオンラインが完成し省力や事務の合理化、販売戦術の強化に役立つようになりました。74年頃よりコンピュータ本来の能力をフルに発揮できる分野として、経営戦略の利用をめざし、各種予測や構造分析を手がけるようになりました。IEのセンスありとかおだてられ、調子に乗って入った道は遠く遙かであり、まさに試行錯誤の連続です。不勉強で高等数学に弱い私にとっては大いなる試練といえましょう。このぐうたら分析屋も近頃は、いっばしの尤もらしいことを言うようになり、常に謙虚たるべしと自省しております。貴誌ははじめ経済誌や社会・人文科学系の本を多く読むようになり、ある程度グローバルな視野をもつことができようになったのは、この種の業務に携ったおかげかと思っております。